

いわて生協 南昌荘チャリティーコンサート

いわて生協は、2011年11月11日に盛岡市の南昌荘で「彩りの庭園に流れる二胡の調べ——がんばろう！いわて チャリティーコンサート」を開催しました。矢巾町在住の二胡奏者・陳 為(ちん・い)さんを迎えて昼・夜の2部制で行なわれたこのコンサートには83人が集いました。収益の一部は東日本大震災支援募金に寄付します。このイベントを企画・主催したいわて生協・南昌荘の牧野典子さんにお話をうかがいました。

日本大震災によって、岩手県の沿岸部は大きな被害を受けました。内陸部に住む人たちは直接の被害は少なかったのですが、家族や家や大切なものを失った被災者の方々になにかしたいと思っています。しかし、いろいろな事情で実際に現地に足を運ぶことができない人が多いのも事実です。そこで、南昌荘でチャリティーコンサートを開き、その収益を寄付して支援活動に役立てていただこうと考えました。

南昌荘で二胡のコンサートを開くのは、2010年11月に続いて2回目です。前回はいわて生協の創立20周年と南昌荘の開館10周年という節目の年だったので、それを記念して行ないました。昨年に引き続き矢巾町にお住まいでNHK文化センターで講師もされている二胡奏者の陳 為さんと陳さんの奥様にご協力いただきました。

今回のチャリティーコンサートは、いわて生協の広報誌だけでなく岩手日報などで広くお知らせしました。組合員さんだけでなく、南昌荘をまだ知らない一般の方にも来ていただきましたからです。沿岸部には身内や知人・友人などが多いですし、また報道で惨状を知り、震災後は心を痛めている方もいらっしゃいます。被災地の復興支援に参加し、なおかつご自身も癒されるような企画にしたいと思ったのです。

南昌荘はちょうど紅葉の時期です。昔懐かしい建物と彩られた庭園を味わっていただき、二胡のコンサートで哀愁のある曲や躍動感のある曲に耳



陳 為(ちん・い)さんの演奏、
陳さんの奥様の進行で和やかに行なわれた。



来場者はふだん聴くことのできない
二胡の美しい演奏に耳を傾けた。

を傾ける。そのことで、ほんのわずかな時間でも日々の暮らしから離れて心を休めてほしいと思いました。

11月9日から5日間は、閉館時間を3時間延長するとともに、ライトアップも行ないました。今回の震災のように、自然は人に牙をむくこともあります。美しいものも与えてくれます。ライトアップで自然の美しさを感じてほしかったのです。昼間来た方がライトアップを知って、わざわざ夜に再び来ていただくこともありました。

南昌荘は、明治18年頃に盛岡出身の実業家・瀬川安五郎が邸宅として建て、数年がかりで作庭したものです。1987年に大手マンション業者による買収計画が持ち上がり、この歴史的な建物・庭を組合員・市民の共有財産として残そうと、いわて生協(旧・盛岡市民生協)が購入しました。

盛岡市の「保護庭園」「保存建造物」に指定されている南昌荘ですが、ただ保存するだけでは意味がありません。いわて生協10周年の2000年からは組合員の募金で修理を行ない、公開・運営をスタートしました。組合員活動の場として、またさまざまな文化活動の発表の場として利用していただいています。



盛岡市の「保護庭園」「保存建造物」に指定されている南昌荘。

チャリティーコンサートの前日(11月10日)に、開館以来の来場者が20万人を迎えました。南昌荘で結婚式を行なった方もいますし、小学校の入学式を終えたお子さんの記念写真を中庭で撮影する方もいます。若い方達のご利用も増えてきました。「組合員のつどい」や「こーぷ委員会」などの会場としても使っていただいています。

いわて生協は、組合員の暮らしを支えるためにさまざまな事業を行なっていますが、南昌荘のような歴史的建造物を日々の生活に役立てていくことも大切だと思います。運営はなかなか大変ですが、これからも交流の場として使っていただければと思います。

来場していたい組合員の工藤和子さん(くどう・かずこ)は「二胡のコンサートは前回も参加しました。ふだんはなかなか聴けない音楽ですが、聴いているうちに気持ちが落ち着きます。震災当日は市内スーパーマーケットの地下で買い物をしていました。揺れがひどかったので品物を入れたカゴを置きっぱなしにして、店員さんの誘導で地上へ逃げました。我が家は停電した程度の被害でしたが、沿岸部で被災された方々のことを思うといたたまれない気持ちになります。弟の家族は野田村に住んでいますが、無事でした。けれども、家族は人や車、家が津波で流されていく様子を見てしまったそうです。悪夢のような光景を目の当たりにするなんて……さぞショックだったことなのでしょう。私は自宅を離れられないため、被災地に行ってお手伝いすることはできませんが、今日の二胡のコンサートはチャリティーだと聞いて、友だちを誘って参加しました。震災のあと、私も気分が塞ぎ

がちでしたが、全国からたくさんの方が被災地を訪れてボランティアとして働いている姿を見て、元気づけられました。いわて生協も支援を行なっていますが、これからもぜひ続けてほしいと思います」と話してくれました。